

シンポジウム

「新しい耐震設計の考え方と文化遺産、景観」

資 料

1995年12月19日

土木学会土木史研究委員会

「新しい耐震設計の考え方と文化遺産、景観」シンポジウム

主催 : 土木学会 (担当: 土木史研究委員会)
後援 : 鋼橋技術研究会、景観デザイン研究会
日時 : 1995年12月19日 (火) 13:30~17:05
会場 : 土木学会土木図書館 2階・講堂

プログラム

13:30~13:40 開会あいさつ

土木史研究委員会委員長 五十嵐日出夫

13:40~15:20 報告 司会: 馬場俊介 (名古屋大学)

1) 新しい耐震設計の考え方

建設省土木研究所耐震研究室主任研究員 運上茂樹

2) 既存橋脚の補強の現状と課題

首都高速道路公団保全施設部保全技術課長 富澤修次

3) 四谷見附橋は基準をクリアするか?

熊本大学工学部土木環境工学科助教授 小林一郎

4) 明治期の橋梁の煉瓦橋脚について

信州大学工学部社会開発工学科助教授 小西純一

5) 近代文化財建築の補強

京都大学工学部建築学科講師 西澤英和

15:20~15:30 休憩

15:30~17:20 パネルディスカッション

「新しい耐震設計の考え方と文化遺産、景観」

司会 : 土木史研究委員会幹事長 大熊 孝 (新潟大学教授)

パネリスト : ① 土木史 馬場俊介 (名古屋大学教授)

② 橋梁構造 藤野陽三 (東京大学教授)

③ 建築 西澤英和 (京都大学講師)

④ デザイン・景観 篠原 修 (東京大学教授)

17:20~17:25 閉会あいさつ

土木史研究委員会副委員長 榛澤芳雄

登録	平成 8年 7月 10日
番号	第 44095 号
社団法人	土木学会
附属	土木図書館